

令和4年度

ファカルティ・ディベロップメント
推進委員会活動報告書

令和5年3月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

令和4年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

【目次】

I	令和4年度FD活動の概要	1
1.	令和4年度の活動概要	1
2.	「学生による授業評価」の検討	2
3.	学生・教職員FD活動交流会の学生メンバーシップ	3
4.	FD活動に関するウェブサイト更新	3
5.	Webアンケート形式による授業評価実施	3
6.	ベストクラスの選定・公表	4
7.	アクティブ・ラーニング研究会の実施	4
8.	学生・教職員FD活動交流会の実施	4
9.	「いつでもどこでもFD」制度の導入	5
10.	今後の課題	5
II	第4期中期目標・中期計画及び令和4年度年度計画	6
III	令和4年度の主なFD活動一覧	7

I. 令和4年度FD活動の概要

1. 令和4年度の活動概要

本年度は、主として以下のファカルティ・ディベロップメント（以下FD）活動に取り組んだ。

第1に、学生による授業評価についてである。授業評価にかかる検討事項として、記名の有無や評価項目の内容、回答率の向上策などがあげられる（『令和3年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』（pp. 5）参照）が、本年度は、これらの検討を進めるにあたって、全国国立教育系大学を対象に調査（意見交換会）を実施した。本意見交換会により、今後の参考となる有益な情報を多く得ることができた。

第2に、学生・教職員FD活動交流会の学生メンバーシップについてである。学生メンバーのFD活動へのコミットメントを高め、学生参画型FDをさらに推進することを目的に、学生メンバーの呼称を「学生FDパートナー」とするとともに、任命証の交付式を実施した。

第3に、FD活動に関するウェブサイトの更新についてである。FD活動の更なる促進と学内外への発信を企図して、FD活動に関するウェブサイトのリニューアルを行った。さらに、既存資源の再利用をねらい、本ウェブサイト「Teaching and Learning Tips」を構築した。これにより、これまでに蓄積してきたFDに関する様々な資料を、データとして検索することが可能となった。

第4に、アクティブ・ラーニング研究会の実施についてである。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から見合わせていたベストクラスの授業公開を、2年ぶりに開催した。

第5に、「いつでもどこでもFD」制度の導入である。これは、本学に在籍する教員が主となって自律的に行うFD活動を「いつでもどこでもFD」と呼称し、当該諸活動をFD推進委員会が支援することで、野火的にFD活動が展開する風土を学内に醸成し、教育の質保証に寄与することを目的としたものである。

本年度は、FD推進委員会を7回開催した。各回の主な議題は、次のとおりである。

FD推進委員会における主な議題

第1回	令和4年度学生・教職員FD活動交流会について 令和4年度学生メンバーの呼称について ベストクラス選定科目の授業公開について 令和4年度前期授業評価について
第2回 (メール審議)	「ベストクラスの選定について」の一部改正について
第3回	令和3年度開講授業科目におけるベストクラスの選定について ベストクラス選定科目の授業公開について 令和4年度後期授業評価について 授業評価にかかる評価項目の検討について ウェブサイトのリニューアルについて
第4回 (メール審議)	授業評価における自由記述記載の注意事項について

第5回	授業評価における自由記述の取り扱いについて 教職大学院実習科目授業評価の実施について ベストクラスの選定過程等について
第6回	令和5年度学生FDパートナーの選出について 令和4年度FD推進委員会活動報告書の作成について
第7回	「いつでもどこでもFD」について

2. 「学生による授業評価」の検討

本学は、平成29年度に授業評価項目を改訂し、平成30年度からその項目によって授業評価を実施している。『平成29年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』には、「ベストクラスの趣旨が教員と学生がともに作り上げる授業としているため、学生による自己評価項目を入れた点に今回の改訂の特徴がある」(p.8)と記されている。平成30年度末には、学部生と大学院生を対象に『「学生による授業評価」に関するアンケート』が実施され、改訂された授業評価項目の内容や実施方法等について意見が聴取されている。そこでは、改訂に概ね肯定的な反応が得られていたが、いくつかの課題も指摘されていた(詳細は『令和元年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書』(pp.11-13)参照)。たとえば、自由記述の充実、中間評価やオンラインでの実施の可能性などであった。なかには、授業評価の意味について問い直しを求める意見も寄せられた。こうした学生からの指摘に加えて、アクティブ・ラーニングのいっそうの充実やオンライン授業の拡充等、今般、大学教育に求められる状況が大きく変化していることは、「学生による授業評価」について検討することを後押しすることとなる。吟味される論点の例は、次のとおりである。

(1) 授業評価の意味の再構成

(2) 授業評価の実施方法

①記名化

②中間評価の実施

特に、本年度は、授業評価における記名の有無や評価項目の内容、回答率の向上策などについて検討を行った。検討にあたっては、令和3年度全国国立教育系大学学生関係理事／副学長・部課長連絡協議会の承合事項7において、本学が提案した「学生による授業評価について」に関する取組状況について、各大学の回答や課題事項を参考とした。さらに、全国国立教育系大学に対して、学生による授業評価に関する調査(意見交換会)を実施し、今後の参考となる有益な情報を多く得ることができた。これらの内容を踏まえ、引き続き、学生による授業評価について検討を行っていく。

調査事項は、次のとおりである。

①実施方法(Web方式、マークカード方式(紙媒体等)、教務システム(LMS)の機能を活用、その他)

②記名又は無記名

③学期(全15回)の途中での授業評価(中間評価)

④授業評価の項目

⑤評価結果の活用方法

- ⑥回答率を高めるための取組・工夫
- ⑦検討課題
- ⑧その他FD推進体制など

3. 学生・教職員FD活動交流会の学生メンバーシップ

学生メンバーのFD活動へのコミットメントを高め、学生参画型FDをさらに推進することを目的に、本年度から、学生メンバーを「学生FDパートナー」と呼ぶこととした。自らを定義する呼称をあてることにより、「教職員と一緒に大学教育の質向上に取り組むメンバー」というアイデンティティの確立に寄与することができた。また、年度当初に任命証の交付式を行い、「学生参画」と「教職協働」を基軸とした本学のFD活動についての共通理解を図った。FD活動が、一つの学生活動として位置付き、長く根付いていくことを期待する。

4. FD活動に関するウェブサイト更新

令和3年度に策定した「FD活動に関するWeb ページ更新の基本方針」に基づき、本年度も、本学のFD活動を積極的にアピールする方策の一つとして、FD活動に関するウェブサイトの大幅な見直しに取り組んだ。具体的には、前年度に決定したビジュアルデザインを元に、FD活動に関するウェブサイトのリニューアルを行った。さらに、既存資源の再利用をねらい、これまでに蓄積してきたFDに関する様々な資料を、データとして検索することができるシステム「Teaching and Learning Tips」を構築した。これにより、「自由記述主な記述一覧」として学内限定で公開している「主な高評価自由記述」を検索することが可能となった。組織的な大学教育の質向上のための仕組みとして機能することが期待できる。

本ウェブサイトを通して、学生・教職員FD活動交流会で出される数多くの実りある提言や示唆といった学生FDパートナーの声を発信し、学生FDパートナーの思いに応える場としていきたい。引き続き、ウェブサイトを「育てていく」という発想に立ち、教職協働、学生参画のもと取り組みを推し進めていく。

5. Web アンケート形式による授業評価実施

本年度も、昨年度に引き続き、Web アンケート形式（授業評価システム）で授業評価を実施した。なお、後期実施の授業評価Web アンケートから、自由記述において、授業担当教員や他の受講者に対する受講者個人の感情的な内容や人権侵害と疑われるような内容の記載を未然に防止し、更に授業改善に資する内容となるよう、記載上の注意事項を変更した。引き続き、人権侵害と疑われるような記載があった場合の対応について、今後検討を行っていく。

また、教職大学院実習科目の授業評価については、昨年度同様、Web アンケート形式（Microsoft Forms）で実施した。

6. ベストクラスの選定・公表

ベストクラスの選定については、令和3年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、12科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに12科目程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的にベストクラスを決定した。

また、決定したベストクラスについては、10月開催の教授会で共有するとともに、FD活動に関するウェブサイトを選定理由書を添えて公表した。

7. アクティブ・ラーニング研究会の実施

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から見合わせていたベストクラスの授業公開を、2年ぶりに開催し、教員間の相互研修の場を設けた。前期は令和3年度ベストクラス選定科目から2科目、後期は令和4年度ベストクラス選定科目から1科目の授業公開を行った。

また、後期の1科目については、第19回アクティブ・ラーニング研究会として、授業公開の後、授業研究会を行い参加者で意見交換を行った。各回の主な内容は、次のとおりである。

	開催日	授業担当教員	科目名称	備考
第1回	2022. 6. 16	宇野 宏幸 教授	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション	
第2回	2022. 7. 14	岡村 章司 教授	特別支援教育リーダーのための創発的コミュニケーション	
第3回	2022. 7. 19	石倉 健二 教授	障害者福祉論	
第4回	2022. 12. 15	秋光 恵子 教授	子ども理解と学級経営の心理学（昼間クラス）	※アクティブ・ラーニング研究会として実施

8. 学生・教職員FD活動交流会の実施

本年度も、学生・教職員FD活動交流会では、ベストクラス候補となる授業科目の選定を主たる活動として行った。さらに、本年度は、第2回において任命証の交付式を実施した（詳細は「3. 学生・教職員FD活動交流会の学生メンバーシップについて」参照）。また、第3回及び第4回では、ベストクラスの選定過程等に関する意見交換を行い、来年度以降のベストクラスの選定過程等について検討を行った。その他、幅広いトピックについて率直な意見交換を行った。なお、本年度は、学生・教職員FD活動交流会を5回

開催した。各回の主な内容は、次のとおりである。

学生・教職員FD活動交流会における主な内容

第1回	学生・教職員FD活動交流会、ベストクラスについて趣旨等の説明
第2回	任命証交付式、ベストクラス選定作業
第3回	ベストクラス選定候補科目について発表、意見交換（ベストクラスの選定過程等について）
第4回	意見交換（①ベストクラスの選定過程等について、②授業評価における回答率を高めるための取り組みについて）
第5回	意見交換（学生・教職員FD活動交流会に参加した感想・意見等について）

9. 「いつでもどこでもFD」制度の導入

本年度、「いつでもどこでもFD」制度の導入について検討し、令和5年度から実施することになった。この制度の目的については前記したとおりだが、この制度によって組織的なFD活動がさらに促進されるとともに、学内で自律的に展開されているFD活動が可視化され、その情報が全学的に共有されることで、それをきっかけに新たに取組をスタートさせる教員や学生が現れることも期待されよう。

10. 今後の課題

ここでは主な課題として、次の2つを取り上げて明記しておきたい。

第1の課題は、学生・教職員FD活動交流会への学生パートナーの参加を促すことである。とりわけ学部生メンバーの参加が課題となる。ただし、この傾向は今年度に限ったことではない。学部生にとって、大学教育の充実を企図した本活動に従事することの意義はわかりづらく、それゆえに、参加への動機づけをもちづらいのが、その一因であると考えられる。今年度から、学生メンバーを「学生FDパートナー」と呼称し、「教職員と一緒に大学教育の質向上に取り組むメンバー」というアイデンティティの確立をねらったが、それが効果として現れるにはいくらかの時間を必要とするのかもしれない。こうした現状にあって、まずもって求められるのは、本活動に従事する意義ややりがいをこれまで以上に学生にアピールすることであろう。そのために、リニューアルを重ねるFDウェブサイトを積極的に利用していきたい。実のところ、学生参画型FDを展開する多くの大学において、同様の課題が浮き彫りになっている。先行する他大学の事例を参考にしたり、必要に応じて他大学のFD担当者と交流したりするなどして、課題の改善に向けて取り組んでいきたい。

第2の課題は、授業公開ならびにアクティブ・ラーニング研究会への参加を促進することである。今年度、感染症の拡大に伴って開催を延期してきた授業公開を再開し、第4回の授業公開後には、アクティブ・ラーニング研究会も実施した。授業公開終了後に実施したアンケート調査の結果は、いずれの回もきわめてポジティブで、授業公開がきわめて有意義な取組であることを示していた。課題は、参加者数である。開催方法、開催時期、周知方法等、多様な側面から検討し、活性化を図っていく必要があるだろう。

Ⅱ. 第4期中期目標・中期計画及び令和4年度年度計画

F D推進委員会に係る第4期中期目標・中期計画及び令和4年度年度計画は、次のとおりである。

中期目標2教育	(3) 研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。(修士課程) ⑦
中期計画09	現職教員の学び直しの機会を保障するために、大学院生の多様な学びのニーズや学びのスタイルに対応する学修方法や修学形態を考案し、実施する。
年度計画	全学的なF D活動に取り組み、授業改善を組織的に推進する。

(実施組織：大学院教務委員会、先端教職課程カリキュラム開発センター、F D推進委員会)

中期目標2教育	(5) 特定の職業分野を牽引することができる高度専門職業人や専門職を担う実践的かつ応用的な能力を持った人材など、社会から求められる人材を養成する。(専門職学位課程、学士(専門職)課程) ⑨
中期計画12	教育行政トップリーダー、学校管理職、ミドルリーダー、新任教員という教職員の幅広いキャリアステージ及び多様な学び方に対応した教育課程を維持する。現職教員の学び直しの機会を保障するために、大学院生の多様な学びのニーズや学びのスタイルに対応する学修方法や修学形態を考案し、実施する。
年度計画	全学的なF D活動に取り組み、授業改善を組織的に推進する。

(実施組織：大学院教務委員会、先端教職課程カリキュラム開発センター、F D推進委員会)

Ⅲ. 令和4年度の主なFD活動一覧

日 付	事 項
令和 4年 5月23日	FD推進委員会（第1回）
令和 4年 5月31日	第1回学生・教職員FD活動交流会
令和 4年 6月16日 ～23日	FD推進委員会（第2回）（メール審議）
令和 4年 6月16日 ～7月19日	ベストクラス選定科目の授業公開（前期）
令和 4年 7月 6日	第2回学生・教職員FD活動交流会
令和 4年 7月21日 ～ 9月30日	前期「学生による授業評価」実施
令和 4年 9月20日	第3回学生・教職員FD活動交流会
令和 4年 9月28日	FD推進委員会（第3回）
令和 4年10月	令和3年度授業科目における「ベストクラス」を公表
令和 4年12月 1日	FD推進委員会（第4回）（臨時）
令和 4年12月 5日	第4回学生・教職員FD活動交流会
令和 4年12月15日	第19回アクティブ・ラーニング研究会 「ベストクラスのうちの1科目を授業公開及び授業研究会」
令和 4年12月22日	FD推進委員会（第5回）
令和 4年12月22日 ～令和 5年 3月23日	後期「学生による授業評価」実施
令和 5年 1月19日 ～ 3月 3日	「教職大学院実習科目の授業評価」実施
令和 5年 2月20日	第5回学生・教職員FD活動交流会
令和 5年 3月 3日	FD推進委員会（第6回）
令和 5年 3月24日 ～令和 5年 3月28日	FD推進委員会（第7回）（メール審議）